



北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼 8 番地

TEL 0138-67-2014

園長 内田 智能

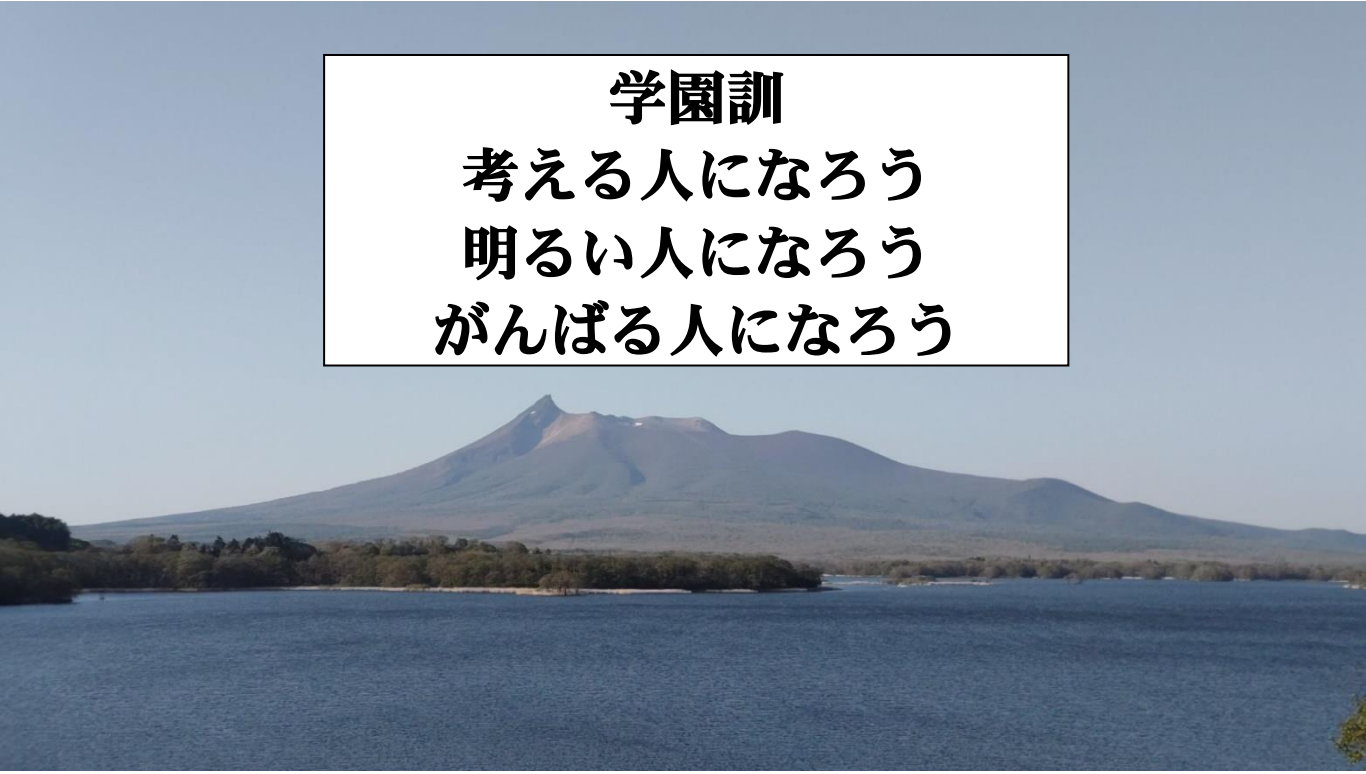
「サポーター」

今年の元旦。近くの神社に初詣に行き、おみくじを引いて家に帰り、「穏やかな正月だな」とのんきなことを思っていたその時、能登半島を大地震が襲い、テレビ番組は一斉に地震のニュースに切り替わりました。テレビでは、地震の揺れによる家屋などの倒壊だけでなく、津波や火災による被害の様子も映し出され、正月早々、改めて地震の怖さを痛感させられました。災害関連死も含めて能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族や被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、「光陰矢のごとし」と言われますが、時の流れは速いもので、今年度も残すところ、あと1ヶ月余りとなりました。現在、学園には18名の児童が在籍していますが、その約半数がこの春に学園を退所し、新しい生活を始める予定になっています。学園の生活は「スマホを使えない」「パソコンも自由に使えない」「TVゲームができない」「自由に外出できない」等々、子ども達にとっては“できないこと”づくめで、“自由がない”と感ずることが多い生活だったと思います。しかし一方で、一緒に汗を流し、一緒に笑い、一緒に考え、困っていること、心配なことなどを相談できる大人がたくさんいて、“助けてもらえる場”であったことも確かだと思えます。その証拠に、退所を前にして「これで自由になれる！！」と浮かれている児童はほとんど見当たりません。むしろ、新しい生活に希望や期待を持ちつつも「家でうまくやっていけるだろうか？」「学校でうまくやっていけるだろうか？」「新しい施設で大丈夫だろうか？」等々、心配や不安を抱え、何となく落ち着かなくなっているように見受けられます。そんな退所を前にして心配や不安を抱えている子どもたちには、「困ったときに誰かに相談すること、助けてもらうことは恥ずかしいことではないよ。」「困ったこと、心配なことがあったら学園に相談していいんだよ。」と伝えたいと思います。

よく「迷惑をかけるな」と言われますが、「迷惑をかける」ということと「困ったときに助けを求める」ということは違います。しかしながら、「迷惑をかけるな」ということを強調しすぎると、困ったときに「助けて！！」と言うことすらも「迷惑をかけること」だと誤った認識を持ってしまう可能性が高まります。

入所理由は様々ですが、学園に入所してくる子ども達は、困ったときに適切に助けを求めることができなかつた、あるいは助けを求めてもそれに応えてもらえなかつた子ども達ということができます。そんな子ども達も学園生活の中で、「自分の気持ちを言葉にし、大人に相談する」ということが少しずつできるようになってきていますが、まだまだ十分とは言えません。学園を退所した後は、ご家族や地域の関係者、措置変更先の施設の方々などの力に拠るところが大きいと思いますが、当園も、学園で暮らした子ども達の“拠り所”となり、“サポーター”であり続けたいと思っています。



学園訓
考える人になろう
明るい人になろう
がんばる人になろう

道南に聳える北海道駒ヶ岳と大沼全景

大沼学園の理念と基本方針

今年度も大沼学園の理念と基本方針に基づき、よりよい支援を展開できるよう学園運営に取り組んでいきます。

【理念】

- 児童は、健康な生活と成長の場を保障され、その権利を擁護される
- 職員は、道立施設として児童福祉を担う責務を自覚し、児童のこれまでの生育に理解と共感を持ち、生活を共にしながら支援する倫理、知識、技術を追求する
- 施設は、存立する地域との交流や関係する機関との相互の理解と連携を大切にする

【基本方針】

- 1 児童の健康な生活を保障する
- 2 児童の教育を保障する
- 3 生活、学習、作業、クラブ活動、各種行事などを通じて、児童の知・徳・体の涵養を図る
- 4 中卒児童の支援を充実させる
- 5 心理療法などの継続的な実施により、児童が抱える心理的課題の改善や内面の成長を図る
- 6 児童の権利擁護、被措置児童虐待防止について職員の認識を向上させ、環境を整備する
- 7 児童相談所など関係機関に必要とされるために、相互理解と連携に努める
- 8 地域に理解され必要とされるために、積極的な広報に努め、交流参加を図る
- 9 アフターケアを充実させ、児童の退所後を支援する

各寮紹介

芝蘭寮

寮長 斉藤 利昭

今年の芝蘭寮は今まで20年以上も寮を持たせてもらっている中でも、一緒に暮らしても居心地の良い雰囲気でした。その年々によっては、嫌な雰囲気の中で暮らさないといけない時もあります。もちろん、子ども同士のトラブルがあったり、職員に対して悪態をついたり、指示や注意を素直に受け入れてもらえず、子どもと対峙したときもありました。その中でもとりわけ、中三生の存在は非常に大きかったと思います。私たち夫婦が私用でお休みをもらう時は、「寮の方は任せてください。先生達はゆっくりと休んでください」とありがたい言葉を掛けてくれます。持論になりますが、リーダーがしっかりしていると寮も安定するのではないかと感じています。それは、大人の組織や会社でも同様でしょう。その昔、寮集団を安定させるコツの一つに、寮長はリーダー的存在を育てるべきだと先輩職員から言われたことありました。僕は先輩職員の言葉もあり、今までも生徒の中にリーダー的存在を作る派でした。最近では、上下関係もなくフレンドリーに関わる傾向が強いのと思います。また、年長児であっても年少児から敬まれるような存在ではなく、むしろ馬鹿にされてしまうような年長児も多かったように思います。そういう意味では、今年度は中三生2名の存在に救われましたし、とても助けてもらい、支えてもらいました。本当にありがとうございます！！もちろん、それ以外の子どもたちも十分に支えてもらい、助けてもらいました。良きリーダー、良き先輩の見本ができると、その下の子どもたちも「〇〇くんのような存在になりたいです」と目標になるのです。年長児として先輩として、年少児から憧れるような存在を大人自身が作ってあげれば良いなと感じています。

蛍雪寮

寮長 奥田 寛崇

「色々と大変」

「来年度は色々と大変だ」。私は毎年度末、そう思いながら新年度を迎えます。今年度もその例に漏れず、昨年3月末の予感がそっくりそのまま現実になったかのような、慌ただしい一年でした。案の定、寮での児童支援は、毎日が試行錯誤の繰り返しで、子どもたちの対応に頭を悩ませたり、交替制ならではの大人の連携に苦しんだり、相変わらず「色々と大変」でした。それでもなんとかまた冒頭と同じ季節を迎えられたのは、同僚職員の献身と関係者の皆様のご支援、そしてこれから紹介する2名の退園生を筆頭に、我が寮の子どもたちの存在があったからに他なりません。

今年度末をもって退園する児童は、当寮からは中学3年生の2名のみ。彼らは2年以上在籍しており、当寮に限らず学園内でも古株にあたる児童でした。そしてどちらも在籍期間、特に今年一年を通して成長し、寮の中核を担ってくれた素晴らしい存在でした。

入所したばかりのときは暴れん坊で、私自身、何度も胸倉を掴まれ、時にはヘッドロックまでされたことのあるK君。彼の一番の課題であった暴力は、昨年5月の上記「ヘッドロック事件」とその振り返りを境に全くなくなりました。それからの彼は寮職員の、特に児童担当の丁寧な関わりを追い風にぐんぐんと生きる力を身につけ、進学先の合格を手土産にして、ついにこの3月に退園の日を迎えます。

K君とは対照的に、イライラや不満を内に溜め込むタイプで、優等生然としつつも自己主張が出来ないことが課題であったR君は、今年一年で多くの活躍の機会と、以前は見せなかった豊かな表情を手に入れました。特に野球部ではエースで4番のキャプテンとして、地区大会では圧巻のピッチングを見せてチームを5年ぶりの全国大会出場へ導きました。ただ、私たち職員としては、それらの功績も誇らしいけれど、彼がいま素直に笑顔や不満そうな顔を見せてくれることを、何より喜ばしく感じるのです。彼もまた、次の舞台への切符を手に入れて学園を巣立つことになりました。

こうして振り返ると、我々大人の「色々と大変」な一年に、子どもたちそれぞれの成長の足跡が凝縮されていることが分かります。その真っ只中にいるときは苦しいのですが、あとになればその苦しみの必然性を感じるのです。「そうか、これは彼らの“成長痛”で、私たちもその痛みを共有しているんだ」と。

短い準備期間を終えると、新しい「色々と大変」な一年が、成長痛に悩まされる日々がまた、やってきます。

晩翠寮

寮長 山口 大輔

「一陽来復」

3名でスタートした令和5年度晩翠寮も、年度末には7名となり、寮の中では一番多くなってしまいました。ひと昔前の学園と異なり、最近の寮運営は子ども集団の質の変化に伴い大人数を動かすことが年々難しくなっています。交替寮は基本的に職員が2名つくようにシフトを組んでいますが、どうしても職員の休憩中や日課の動きによっては単独で児童対応する場面が出来てしまい、目が行き届かなくなります。私の個人的な体感ですが、最大7～8名が限界となってきているのではないかと感じています。

今年度は新しく入ってくる子よりも古株児童の方が不安定だったりで、全体が大きく崩れるまではならずとも、フワフワと落ち着かない雰囲気寮でした。

最近の傾向として、もちろん発達にハンデを抱えていたり、虐待を受けたりといった児童が多いのですが、それだけでなく、全体的に、その子の人格の基盤となる部分が育っておらず、依って立つところがグラグラだと感じる事が多くなっています。愛着形成が出来ていないとかたづけるのは簡単ですが、結果として、自他からのストレスに耐えられず、常に一杯一杯で刺激を受ければすぐに溢れてしまいます。処理きれない自分の中の「何か」が、暴言や暴力、問題行動といった周囲との軋轢につながり、入所に至ることが多いようです。

児童自立支援施設は、在所期間が他施設に比べれば短い傾向にあります。限られた期間の中でこうした問題に向き合い、行動を改善していくのは容易ではありませんが、非才なる身の全力を挙げて子どもたちに向き合っていきたいと思えます。

年度末で3名が退園し、次年度は4名でスタートする予定です。今後とも、学園の取り組みにご理解とご支援をよろしくお願い致します。



活動報告

令和5年度 学園祭

児童自立支援専門員 佐藤 秀介

今年のテーマは「Maximum～己の限界を越えて最高の作品へ～」です。大沼学園で最大規模の行事であり、来園者の皆さまに最高のものをお見せできるよう、児童・職員が一丸となり、学園祭の準備を進めてまいりました。

当日の舞台発表では、「本当の宝物」というテーマに沿って、会場内の笑いを誘った小学生、オリジナルで振り付けを考え、練習を重ねて4人で臨んだ中1の「ヲタ芸」、4月からの自分たちの軌跡を寸劇やスライドでおもしろおかしく演じた中2、それぞれ個性を發揮しピアノや芸、歌を発表した中3、最後に毎年恒例の児童全員が所属する和太鼓クラブの発表で迫力のある演奏を来園者の皆さまにお届けしました。



また、今年は新型コロナウイルスの影響で昨年まで制限していた、七飯更生保護女性会の皆様による喫茶「愛カフェ」も再開することができ、今年の学園祭は、昨年よりも規制を緩和した中で臨むことができました。遠方からお見えになった来園者も多い中、皆様には、ご理解とご協力をいただいたこと、この場をお借りし、感謝を申し上げます。また、開催にご尽力いただきました関係者の皆さまにもお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

令和5年度 和太鼓クラブ

児童自立支援専門員 藤田 怜

今年度の和太鼓クラブは、昨年度太鼓を経験している児童が多いため、初日からある程度の演奏ができるところから始まりました。ただ、和太鼓は奥が深く、その「ある程度の演奏」から伸び悩む期間がありました。それを打開したのは紛れもなく児童たちでした。昨年度の経験から自信を得て、職員に教えられたことだけでなく、より良い演奏を自分たちで考え、そして、実践することでこれまでにない大沼学園の太鼓演奏をやり遂げることができたと感じています。



また、今年度は数年ぶりに大沼岳陽学校公演を実施することができ、地域の方々にも和太鼓クラブの活動の成果を届けることができ、児童らも達成感に溢れていました。

来年度も今年以上の演奏を目指し、児童と職員が協力し合いながら、大沼学園でしか表現できない物を作り上げていきたいと思えます。

中3 コタロウ

大太鼓の相方といきが合うまでに少々時間がかかりましたが、自分に合わせてもらうのではなく、自分が合わせるにいく努力をしました。

本校での公演はとても緊張しました。到着してからは少しずつ緊張がほぐれていって、+αに演奏も上手いき、過去最高に大太鼓も合っていて良かったです。

令和5年度 百人一首大会

福祉指導員 工藤 大輝

各々の年末年始を過ごし、新年を迎えて間もなくの1月11日、12日。令和5年度百人一首大会が行われました。

子どもたちの真剣な表情が、各会場で輝いていた大会でした。勝ったら喜び、負けたら悔しがる。そんな、ともすれば当たり前とされる反応を出すことが難しい大沼の子どもたちにとっては、この大会で見せていた表情はとても素晴らしいものでした。きっと、練習の段階では様々な失敗やトラブルなんかもあったと思います。彼らにとって勝ち負けとはそれだけ大事なものでしょうから。でも、大会の時に見せていたのは勝っても負けても相手を励ましたり、勝利を称えたり、たくさんの失敗を経て成長した姿でした。私はこれが初めての行事運営でしたが、こんな子どもたちの姿を見られて幸せだなと思いました。大会に参加した子どもたち、最後までよく頑張ったね。



中3 ハルト

僕は、百人一首で去年、今年と2連覇を成し遂げました。その裏には、日頃の生活と練習だと思います。生活は当たり前のことをきっちりやって淡々としていました。先生方に言われたことをしっかりと頭の中に意識して生活したのが1つのことだと思います。練習は、自由な時それから少しでも余っている時間で取り組みました。でも、これら2つができて優勝したのは、寮長先生が指導してくれて寮母先生が応援してくれただったと思います。自分が強くなったのではなく他の人に強くしてもらったから優勝しました。

令和5年度 スキー学習

児童自立支援専門員 成田 健悟

例年よりも雪が少ないなか、グリーンピア大沼スキー場、函館七飯スノーパークでスキー学習を実施しました。実施にあたってはまずは実科職員がスキー板にホットワックスの塗布、エッジ研磨、サイズ調整等をして児童が安心安全に滑れるよう整備をしています。

その後は事前説明会として、スキー場でのルールやマナーを学びます。スキー学習ではスキーの技術習得ももちろん大事ですが、「順番を守る」、「他の利用者の邪魔をしない」など社会で生活するうえでのルールを学ぶことも大事です。児童達も真剣に説明を受け、来るスキー場での滑走に備えます。

スキー場での滑走では3日間とも天候に恵まれました。特に3回目の函館七飯スノーパークでのスキー学習は前日の降雪そして当日は晴れ、最高のコンディションのもと児童、職員ともにスキーを満喫した1日。まさにスキー・スノーボード業界で言われる「THE DAY」な1日でした。子ども達にとっても思い出に残るスキー学習になったと思います。



令和5年度 大沼・函館雪と氷の祭典

専門主任 斉藤 孝宏

今年も2月5日から2月9日までの5日間にわたり大沼公園会場にて雪像制作を行いました。芝蘭寮は「一寸法師」、蛍雪寮は「ゴジラ」、晩翠寮は「辰年」と題してそれぞれの力作が完成しました。昔先輩から「学園の行事は大人の本気度が試される。大人が真剣に取り組むことで子ども達も自然に真剣に取り組める」と教わりました。全くその通りだと感じています。今年も子ども達は寒い中一生懸命に取り組む良い作品ができました。



中3 リクト

蛍雪寮の雪像はゴジラを作りました。僕は今年3回目なので周りの子や職員方に教えながらやりました。去年のサメも難しかったけど個人的には今年の方が難しくクオリティーも高かったです。僕はずっと頭の上で雪を削ってたんですが、足場がどんどん無くなり、後半は落ちないように注意をはらいながら削ってました。雪像で1番手の込んだ作業はゴジラの皮ふを氷をつけてでこぼこにしたことです。氷がなかなかくっつかず、工夫しながらやりました。制作期間ギリギリで終わりました。完成した作品を改めて見ると達成感があふれてきました。とても良い経験できました。



学 園 の 動 向

令和5年9月～令和5年10月

9月	
5日	室蘭児相 小牧分室来園面談
6日	運営会議 分校・学園合同研修
7日	職員会議
11日	内科検診 東北・北海道地区児童自立支援施設協議会 研修 (北広島～12日)
13日	支援会議 給食会議 避難訓練
14日	職場内研修
17日	マラソン大会試走・温泉入浴
18日	野球部練習試合
20日	環境整備活動(グラウンド整備)
21日	係長主査会議
22日	修学旅行(後期課程9年生)～23日
24日	理髪
25日	寮担当者会議
27日	令和5年度連携会議
28日	修学旅行(前期課程6年生)～29日
29日	函館心の里親会来園
30日	第75回大沼地区少年野球大会 ～10月1日 (9月 入所 0名 退所 0名)

10月	
1日	第75回大沼地区少年野球大会 準優勝
2日	買い物訓練
9日	温泉入浴
11日	運営会議
12日	職員会議 職場内研修
13日	マラソン記録会 入所(北見児相)
14日	和太鼓練習会 (佐藤三昭氏・七飯男爵太鼓創作会)
16日	内科検診 学園祭特別時間割開始
17日	職場内研修 室蘭児相 小牧分室来所面談
18日	職員会議 医診
19日	支援会議 室蘭児相来園面談 函館児相来園面談
24日	寮担当者会議 子ども政策子育て支援担当局長・虐待防止 対策担当課長視察 職場内研修
26日	環境整備活動(園内整備)
29日	理髪 (10月 入所 1名 退所 0名)

学 園 の 動 向

令和5年11月～令和6年2月

11月

- 2日 北見児相来園面談
- 3日 学園祭
- 6日 買い物訓練
室蘭児相から施設見学
- 8日 運営会議
- 9日 職員会議
中央児相来園面談
室蘭児相苦小牧分室来園面談
- 10日 和太鼓クラブ大沼岳陽学校公演
- 13日 内科検診
- 14日 施設連絡協議会（室蘭児相）
- 15日 給食会議
- 16日 宿泊研修（前期課程5年生）～17日
道立児童自立支援施設運営指導
- 17日 札幌家裁小樽支部来園面接
- 18日 医診
- 20日 避難訓練
学校訪問
令和5年度北海道児童相談所・児童福祉
施設 性暴力対応専門研修会～21日
- 22日 入所（釧路児相）
- 26日 理髪
- 27日 支援会議
函館児相来園面談
- 29日 寮担当者会議
(11月 入所 1名 退所 0名)

12月

- 6日 運営会議
- 7日 係長主査会議
札幌家裁苦小牧支部視察
- 8日 内科検診
- 13日 給食会議
- 18日 支援会議 医診
- 24日 理髪
- 26日 第2学期終業式（分校）
- 27日 寮担当者会議
温泉入浴
- 28日 冬季一時帰省開始（～5日）
- 29日 残留行事（カラオケ・水泳・温泉入浴）
(12月 入所 0名 退所 0名)

1月

- 2日 残留行事（映画鑑賞）
- 4日 残留行事（ワカサギ釣り、温泉入浴）
- 10日 室蘭児相苦小牧分室来園面談
- 11日 百人一首大会（団地戦・個人戦）
- 12日 百人一首大会（団体戦）
- 14日 理髪
- 15日 スキー遠足（スノーパーク）
釧路児相来園面談
- 16日 第3学期始業式（分校）
運営会議 係長主査会議
- 17日 職員会議 医診 給食会議
- 18日 児童相談所職員研修～20日
職場内研修
- 23日 施設見学
- 25日 児童相談所職員研修～27日
- 29日 寮担当者会議
室蘭市要保護児童対策地域協議会
- 30日 施設連絡協議会（岩見沢児相）
中央児相来園面談
- 31日 スキー学習（グリーンピア大沼）
退所（北見児相）
(7月 入所 0名 退所 1名)

2月

- 1日 職場内研修
- 2日 スキー学習（グリーンピア大沼）
- 5日 大沼函館雪と氷の祭典雪像作り～9日
- 6日 第三者評価受審～7日
- 10日 大沼函館雪と氷の祭典見学 温泉入浴
- 11日 理髪
- 13日 内科検診
- 14日 運営会議
- 15日 職員会議
室蘭児相苦小牧分室来園面談
- 16日 スキー学習（スノーパーク）
室蘭児相苦小牧分室来園面談
- 19日 支援会議
苦小牧市要保護児童対策地域協議会
- 21日 医診 給食会議
- 25日 函館心の里親会 中学卒業生激励会参加
- 26日 室蘭児相苦小牧分室施設見学
- 27日 子どもの権利養護に係る技術的研修
函館児相来園面談
函館家裁来園
ケース会議（学校訪問）
- 29日 中卒生支援検討会議
(2月 入所 0名 退所 0名)

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(9月1日～2月29日)

国際ソロプチミスト函館 様 七飯更生保護女性会 様 函館心の里親会 様
株式会社セコマ 様 株式会社セブンイレブン 様 株式会社西部建設運輸 様
稲垣 明美 様

(順不同)

編集後記

今年度は今まで行っていた恒例行事をほとんど開催することができ、関係者等の参加をいただきありがとうございました。

雪が降らない日も多くあり、積雪量も例年よりも少なく、雪が溶けていると、キャッチボールなど子ども達の元気な声が聞こえています。雪解けが早くなることを期待しています。

児童と日常をともにしながら、職員も共に活動を通して、お互いに切磋琢磨して参ります。

令和5年度湖畔第3号をご高覧いただき、ありがとうございました。